



生産者と消費者の ふれあいの場 淀江名物 — 盆市 —

今年で20年目を迎える毎年恒例の盆市が8月10日(火)に町文化センター前でわれ、盆花などを買求める人でにぎわいました。



川にゴミを捨てないで！

大和を美しくする会(中畑博之会長)の恒例の佐陀川一斉清掃が8月1日(日)に行われました。

この日は大和地区の自治会の皆さんが多数参加し、佐陀川や海岸の周辺のゴミ(可燃ゴミが340キロ、不燃ゴミが630キロ)を回収しました。

川や海岸には絶対にゴミを捨てないでください。

ゆめ基金留学体験記

「淀江町青少年ゆめ基金」を活用し、イギリス留学していた野坂憲史さん(10区の1・18歳)が帰国されました。野坂さんは高校の交換学生として、平成15年8月から6月までイギリス・サリー州のウォーキングという町に滞在しておられました。野坂さんのイギリス留学の報告を一部紹介します。

Dreams Come True (成せば成る)

野坂 憲史

留学を決めた理由?それは「自分らしさ」・「自分の可能性」を試す絶好のチャンス!そして、留学とは何?それは「自分で体験し、自分なりに答えを出すもの」だと僕は思います。

出発する前は、留学生活に対する期待と不安でいっぱいでしたが、新しい自分の将来を見い出すため、失敗を恐れずに何事にもチャレンジしようと、心に決めていました。

去年の8月にイギリスのウォーキングという町のSt.John Baptist Schoolに高校生交換留学生として、1年間の留学生生活をスタートしました。しかし、全てが思い通りにいく訳ではありませんでした。最初の1か月は、英語でのコミュニケーションがうまくいかず、自分の伝えたいことも伝わらず、とても歯がゆい思いでいっぱいでした。しかし、周りの人々はそんな落ち込んだ僕をやさしく励ましてくれました。とくに、ホストファミリーは常に話しかけてくれ、落ち込んでいる僕に対して、叱ってくれたり、間違いを優しく指摘してくれました。また、友達は僕



ホストファミリーのロビンソン夫妻

が伝えようとしていることを理解するように努力し、僕を導いてくれました。次第に英語力もつき、人が何を言っているのかも理解出来るようになり、自分の伝えたいことをうまく表現できるようになってからは、楽しい毎日でした。人と話す時も会話がはずむようになってきて、友達との交流も深まり、パーティーにも誘ってくれたり、一緒に旅行に行ったりするようになりました。あっという間の僕の留学生活はとても濃く、文章で語り尽くせないほどです。

留学から帰国した今、留学とは何だったのか・・・?その答えを自分なりに見つけました。それは「感謝の心」です。この留学に参加出来たのも、両親や家族と「淀江町ゆめ基金」の支援のおかげだと思います。そして、留学への参加を勧められ、いつも支えてくださった学校の先生方、いつも相談に乗ってくれた大切な友達、そして、すべての人に感謝し、いつでも自分のベストを尽くすことが大事なことでわかりました。イギリスで得た「素晴らしい友達」「貴重な体験」は、将来の自分にとっては大きな収穫となりました。

(一部抜粋)

友達が開いてくれた送別会
(後ろ真ん中が野坂さん)

